



和かっぱ

まもなく11月に入ります。
秋は涼しく、活動しやすいのでアウトドアに最適な季節です。
そろそろ紅葉も見頃になる頃なので、もみじ狩りにでも行ってみるのはいかがでしょうか。



和食ダム 現在の様子

これまでに引き続き左岸側の再掘削を進めており、**9月末時点において標高80m**まで完了しました。掘削面が下がるにつれ岩盤が硬くなってきており、写真中央のようにブレーカーという部品を装着し、岩盤を掘り起こして掘削を行っています。騒音等で近隣の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。また、新残土処理場では法面に植生基材吹付工を施工し、徐々に一面が緑へと移り変わってきています。今後も安全には十分に注意して引き続き工事を進めて参りますので、よろしくお願いいたします。



和食川の護岸改修工事を行います

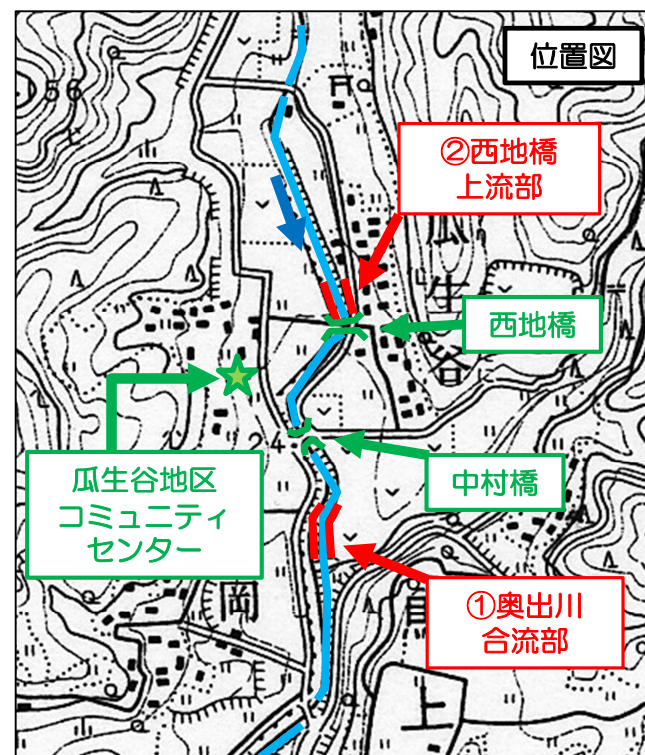


令和3年10月～令和4年3月末までの期間中に和食川の護岸改修工事を行います。

施工場所は右図のとおりで、今回は以下の2箇所を施工します。

- ①奥出川合流部から約70m上流部まで (写真左)
- ②西地橋から約20m上流部まで (写真右)

工事期間中は、工事用車両の通行や機械の稼働音などで周辺にお住まいの方には、大変ご迷惑をおかけしますが何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。





和食川 河川環境学習会 芸西小学校 4年生



10月7日に和食川の河川環境学習会を芸西小学校4年生の子供たちと行いました。
学習会は、ダム役割と地域の水を巡る歴史・文化を学び、和食川への思いやこれから先のまちづくりを考えるきっかけにもらうために、毎年開催しています。

屋内学習

①和食ダムの役割と上下水道の仕組み

まず教室で川と関わりの深い和食ダムの役割と上下水道の仕組みを勉強しました。
子供たちからは、ダムの大きさに驚く声や、水が家庭で利用できるまでの仕組みに興味深そうな声が挙がりました。



屋外学習

次に、和食川河口部のかっぱ公園で和食川の歴史を勉強した後、水質実験と生き物調査を行いました。

②水質実験

水質実験では、水の汚れ度合いを確認するためにパックテストを用いて、各自用意した生活排水（米のとぎ汁、石けん水など）と和食川の水を比べ、「和食川の水はきれい」なのに対して「生活排水は汚れている」ことが分かりました。

③生き物調査

生き物調査では、子どもたちは網を片手に目を輝かせながら川の中に入り、周りの友達や大人と協力して、オイカワの稚魚やスジエビ、ヨシノボリ（ゴリの仲間）といった種類の生き物を捕まえていました。中には、体長7cmほどのモクズガニを捕まえた子もいて大喜びの様子でした。

④これまでの勉強を終えて

子どもたちからは、「いつまでもゴミがないきれいな川でいてほしい」や「生き物がたくさん増えてほしい」などの活発な意見が挙がっていました。

子供たちには、これからも今回勉強したことを忘れずに、和食川を大切に思う気持ちを持ってもらえればうれしいです。



芸西村の史跡紹介【第31弾】

わじがわ どうりゅうてい 《和食川と導流堤》

昔の和食川は、現在とルートが異なり、海の近くまで流れてきて、東へ迂回し、赤野川の河口で合流して流れていたようです（右上図参照）。

現在のルートになったのは、江戸時代の文政（1818-1830）の頃であると推測され、堀切工事（地面を掘って水路を通す作業）が行われて以降、湿地帯は少なくなったようです。しかし、それでも台風による大波の時は、海水が川を逆流することが起こり、昭和28年（1953）の台風では、両岸の堤防が決壊し、平野一面水浸しになりました。

これを受けて、当時の県議会議員 野崎利光氏は、河口の根本的改修を提唱しました。当時の3つの村（和食村、馬ノ上村、西分村）の村長とともに建設省に陳情し、昭和29年度（1954）の災害復旧事業として採決され、昭和34年（1959）に日本で初めての暗渠4門を持つ導流堤が完成しました。これにより海水が逆流する水害はなくなりました。

ちなみに和食川には「かっぱ」が存在したという伝説が残っており、当事務所のイメージキャラクター「和かっぱ」の由来となっています。

